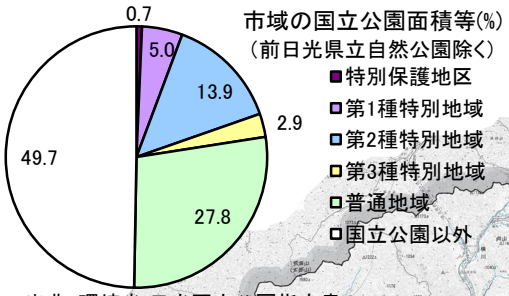
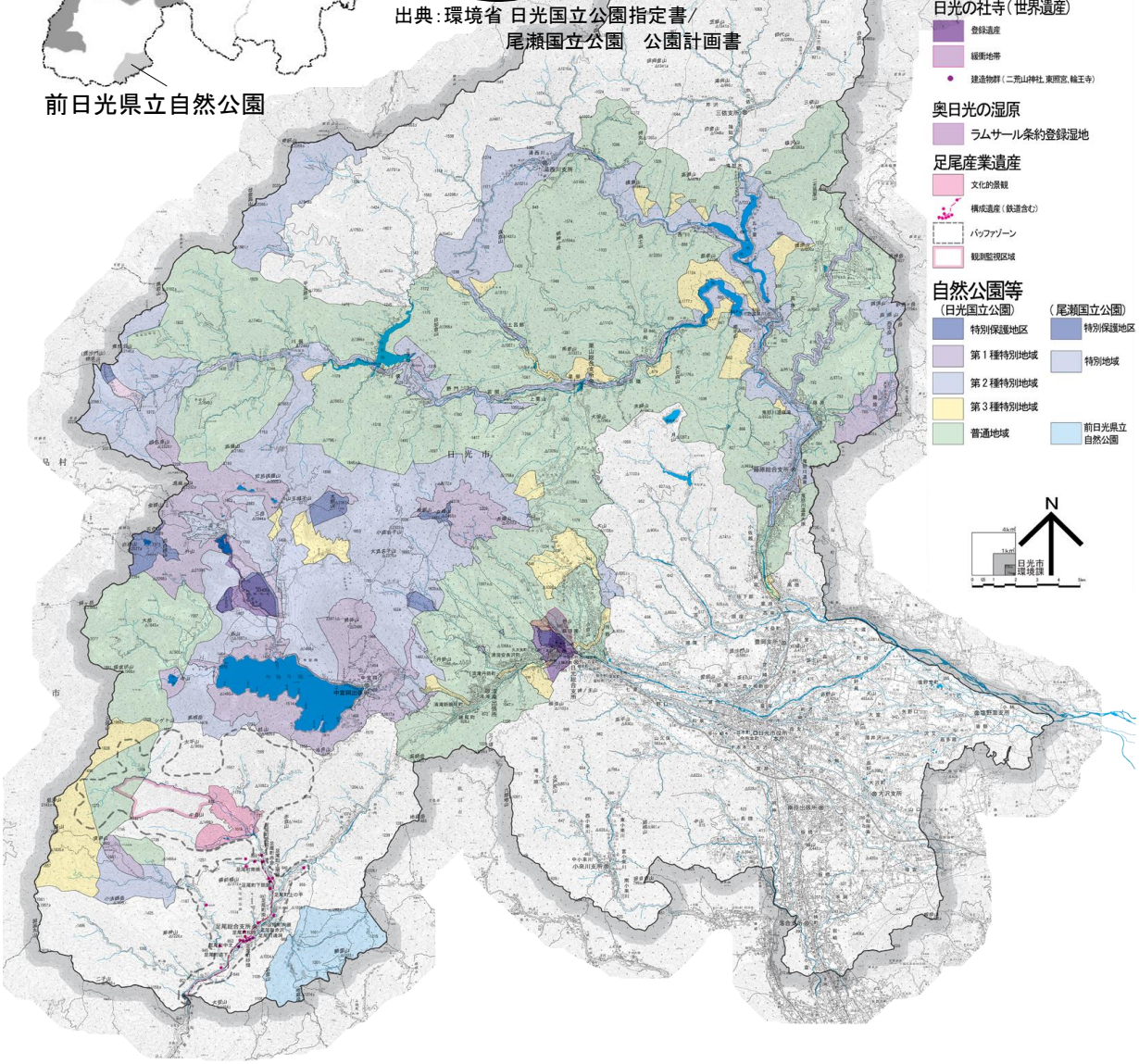
1) 自然公園等

国立公園とは、日本の風景を代表するような傑出した自然の風景地として指定されるものです。日光国立公園は、1934（昭和9）年12月4日に誕生した日本で最初の国立公園の一つで、その区域は群馬、栃木、福島の3県の3市3町2村にまたがり、日光地域75,706haと那須甲子・塩原地域39,202haの計114,908haの地域が指定されています。

当市は日光地域の71,761haが指定され、市域のほぼ半分が自然公園となっています。

また、田代山・帝釈山の山頂部が尾瀬国立公園（市内分1,147ha）に、足尾地区の勝雲山・地蔵岳周辺は前日光県立自然公園に指定されています。



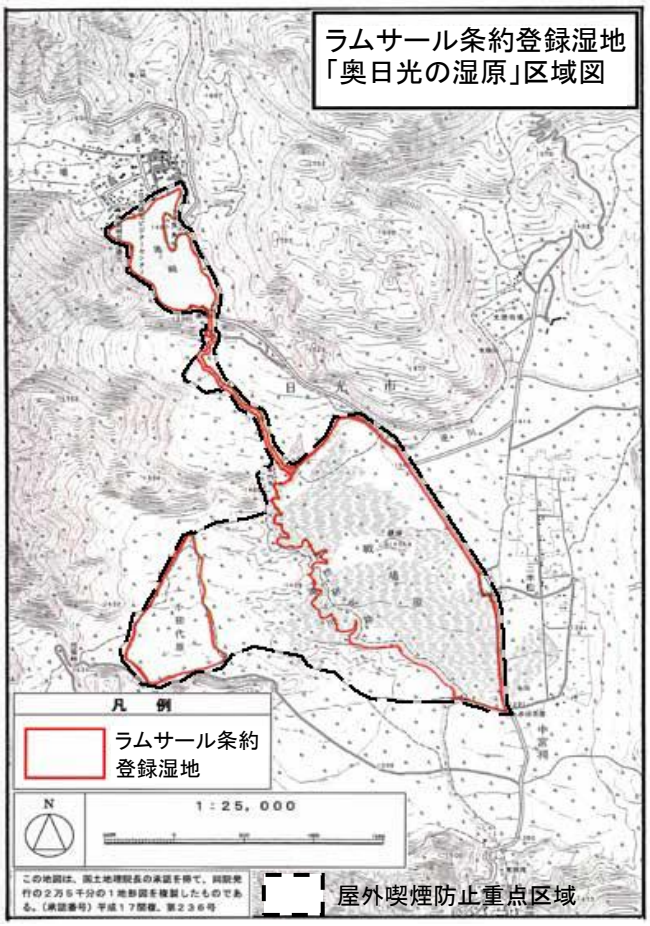


ラムサール条約登録湿地「奥日光の湿原」

国際的に重要な湿地の保全などを話し合うラムサール条約第9回締約国会議が、平成17年11月8日、アフリカのウガンダの首都カンパラで開催され、「奥日光の湿原」がラムサール条約湿地に登録されました。令和3年11月現在、日本の条約登録湿地は53ヶ所となっています。

奥日光の湿原　（環境省HPより）

所在地	栃木県日光市
面積	260.41ha
区域	湯ノ湖、湯川、戦場ヶ原、小田代原（ラムサール条約登録湿地区域図参照）
公園区分	日光国立公園特別保護地区及び第1種特別地域内

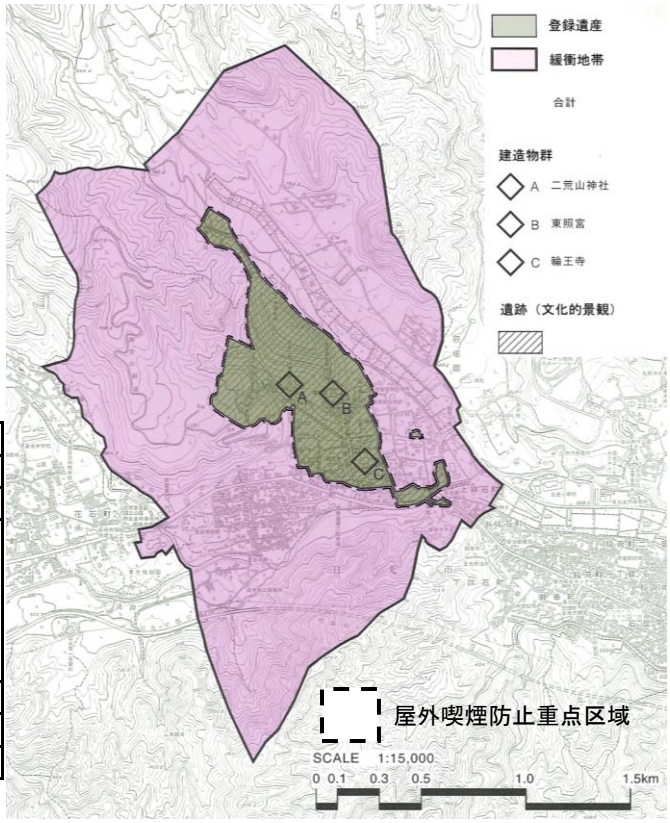


湯ノ湖	標高1,478m、面積0.35km²、周囲2.9km、最大水深14.5m、湖水の滞留日数約30日。三ッ岳の噴火によってできた堰止湖。 水深が浅いため本来富栄養化しやすい湖ですが、外来のコカナダモが増えて水質に影響を与えているといわれています。 湯滝付近でアズマシャクナゲの群落が分布し、東岸の兎島にある湿地では、ワタスゲ、ツルコケモモ等が生育しています。また、キンクロハジロ、ヒドリガモなどの渡り鳥にとっての重要な場所となっています。
湯川	湯ノ湖の水が湯滝となって落ち、中禅寺湖に至る川。 ゆったりと流れる独自の景観は本州ではめずらしい。戦場ヶ原に水を供給している川ではなく、逆に戦場ヶ原からの水が注いでいます。今回の登録区域は全川ではなく、湯滝から戦場ヶ原横までの区間です。
戦場ヶ原	男体山の噴火によって川がせき止められてできた湿原。 湿原はミズゴケが厚く積もった高層湿原、水がたまっていて栄養分に富んでいる低層湿原、その中間の中間湿原に大きく分けられますが、戦場ヶ原にはこれらすべての種類の湿原があります。今回の登録地区は国道の西側のみです。戦場ヶ原では、ワタスゲ、レンゲツツジ、ホザキシモツケ等の100種以上の湿原性植物の生育が確認されています。また、オオジシギ、ノビタキ等の主に湿地帯に生息する鳥類の繁殖も確認されています。
小田代原	湿原から草原に移行する階段といわれていますが、学術的な調査があまり行われておらず、はっきりとしたことはわかっていません。 一部を除きカラマツが植林されましたが、山火事で焼けたところは草原になっています。平らに見えますが高低差があり、植生に違いがあります。 小田代原は、湿原から草原へと遷移過程にあり、アヤメ、ノハナショウブ等の湿原性植物のほか、ウマノアシガタ、ホザキシモツケ、ニッコウアザミ等の草原性植物の生育が確認され、多様な植物相を有しています。また、オオジシギ、ノビタキ等の主に湿地帯に生息する鳥類の繁殖も確認されています。

世界遺産－日光の社寺

1999年（平成11年）の12月2日、モロッコのマラケシュで開催された第23回ユネスコ世界遺産委員会において、「日光の社寺」の世界遺産登録が決定されました。

世界遺産に登録された「日光の社寺」の内容は、日光山内にある二荒山神社、東照宮、輪王寺の103棟（国宝９棟、重要文化財94棟）の「建造物群」と、これらの建造物群を取り巻く「遺跡（文化的景観）」です。



世界遺産の名称	日光の社寺 Shrines and Temples of Nikko
所在地	栃木県日光市
登録遺産の範囲	二社一寺（二荒山神社、東照宮、輪王寺）及びこれらの建造物群をとりまく遺跡からなり、その中には国宝9棟、重要文化財94棟の計103棟の建造物群が含まれる。
登録遺産の面積	50.8ha
緩衝地帯の面積	373.2ha
合計面積	424.0ha

「日光の社寺」世界遺産登録基準

「日光の社寺」は、以下の3つの登録基準に該当すると判断され、推薦されました。

登録基準の1 人間の創造的天才の傑作を表現するもの	日光の建造物の多くは、17世紀の日本を代表する天才的芸術家の作品群です。 左甚五郎は伝承の人といわれていますが、日本画の狩野探幽や大工棟梁の甲良豊後守宗広（こうらぶんごのかみむねひろ）などは、江戸時代を代表する天才的芸術家でした。
登録基準4 人類の歴史の重要な段階を物語る建築様式、あるいは景観に関する優れた見本であること	東照宮の本社と大猷院霊廟は本殿と拝殿、それをつなぐ石（相）の間という３つの建築が一つになった「権現造り」という様式ですが、その後の日本古来の建築様式の重要な見本となっています。 また、全体としての建造物群は、周辺の杉の大木と一体となって見事に配置されており、日本を代表する宗教的建築群といえます。
登録基準6 普遍的な価値をもつ出来事、伝統、思想、信仰、芸術に関するもの	「日光の社寺」は、徳川将軍家の祖、家康が眠る墓所として、代々の将軍の社参や朝廷からの例幣使の派遣、朝鮮通信使の参詣などが行われ、江戸時代の政治体制を支える重要な歴史的役割を果たした場所です。 また、これらをとりまく自然環境は、山や森を神格化しようとした日本独特の神道思想と密接に関係する文化的景観を示しています。

資産種別	国内法上の指定区分	国宝	重要文化財
建造物群	二荒山神社	―	23棟
	東照宮	本殿･石の間及び拝殿、正面及び背面唐門(2棟)、東西透塀(2棟)、陽明門、東西回廊(2棟)の8棟	34棟
	輪王寺	大猷院霊廟本殿・相の間・拝殿の1棟	37棟
	国内法上の指定文化財数	9棟	94棟
	建造物合計	103棟	
遺跡	（文化的景観）	史跡（50.8ha）	

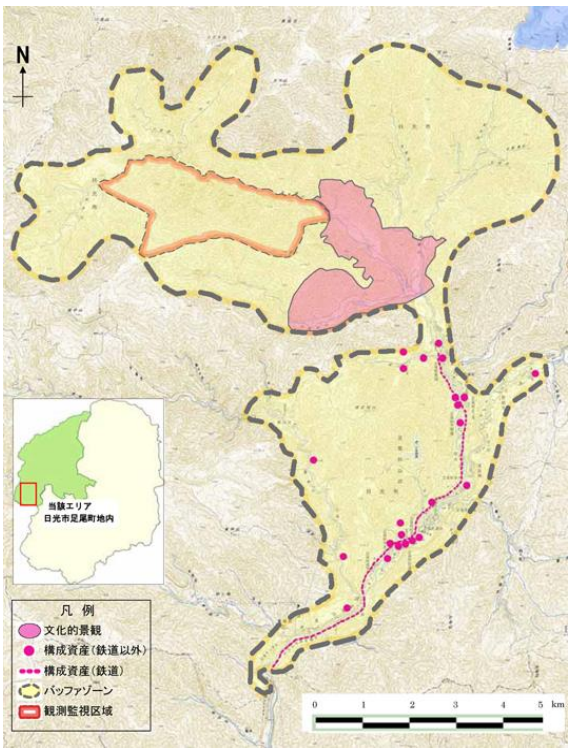
出典：日光市文化財マップ（平成31年3月改訂 日光市教育委員会発行）

足尾地域の産業遺産

足尾銅山は、明治以降の日本の近代化と産業化に大きく貢献したと同時に、日本で初めて社会問題化した公害とその対策の歴史でもあり、世界的にみても鉱業の発達とそれに伴う環境破壊とその対策の経緯といった視点で評価された遺産はなく、極めて稀な事例と考えています。

日光市では、『足尾銅山－日本の近代化・産業化と公害対策の起点－』を「世界文化遺産国内暫定一覧表」へ追加記載をするため、栃木県と共同で提案書を平成19年に文化庁へ提出しています。

「世界文化遺産国内暫定一覧表」へ追加記載
提案書指定地区



「足尾銅山－日本の近代化・産業化と公害対策の起点－」提案書の概要より

「足尾銅山－日本の近代化・産業化と公害対策の起点－」

明治政府は欧米諸国で実用化された先進技術を導入し、極めて短期間で近代化を達成した。明治初期の殖産興業政策により、はじめ官営事業によって移植された工業技術は、明治20年前後に進められた民間への払い下げによって民営企業に引き継がれ、そこで在来の技術と融合し、状況に応じた巧緻な改良を加えることにより産業化は加速された。しかし、足尾銅山の場合は、官営時代がなく、近代当初から古河家による民営鉱山として出発し、技術導入も古河の手によって進められた点が特徴的である。

明治10年（1877）足尾銅山を買収した古河市兵衛は、探鉱～採鉱～選鉱～製錬に至る各工程とその輸送方法に最新技術を積極的に導入した。早くも明治23年（1890）には水力発電所を建設しこれらの工程を電化するとともに、やがて電気精銅までの一貫した銅生産システムを確立する。これにより足尾は、東洋一の生産量を誇る銅山へと成長した。

１９世紀末の世界的な電気産業の拡大に伴う銅需要の急増に呼応し、産銅量を増やしていった日本は、２０世紀初頭には世界第３位の産銅国となる。しかし、その過程で全国の銅山では製錬で発生する亜硫酸ガスと鉱山廃水による環境への影響が次第に顕在化していった。狭隘な山間部で、かつ長大な流域面積を有する河川の最上流部に位置する足尾銅山の立地は、他の銅山に比べ被害をより深刻なものとした。明治24年（1891）、発足間もない帝国議会での衆議院議員田中正造の追求を契機に鉱害問題は広く知られるところとなり、やがて大きな社会問題へと発展した。事態を重く見た政府は日本の鉱業の存亡をかけ、明治29年(1896)日本初の「予防工事命令」を発令し、以後徹底した対策を古河に命じた。古河もこれに応え、厳重な工期のなか浄水場、廃石鍰の堆積場、脱硫塔の建設を完工した。

これにより廃水対策は一定の成果を見るが、脱硫塔での煙害対策は不十分であった。その後、大正4年（1915）に希釈法、同7年（1918）に電気集塵法といった当時最新の技術による対策を講じ排煙中の有害物質の除去に努めたが、亜硫酸ガスの完全回収が成功したのは、フィンランドのオートクンプ社が開発した技術を基に、昭和31年（1956）に世界で初めて実用化に成功した「自溶製錬法」とそれに伴う脱硫技術によってであった。その後、古河が独自の改良を加えて完成させたこの技術は、現在世界各国で導入され活動中である。

このように明治以降の足尾銅山の歴史は、日本の急速な産業化の歴史の反映であると同時に、日本で初めて社会問題化した公害とその対策の歴史でもあり、それは同時期の先進諸国に共通する大きな課題への挑戦でもあった。

足尾銅山は昭和48年（1973）に閉山し、やがて銅生産の歴史も幕を閉じたが、坑内廃水の浄水処理は現在も予防工事命令により建設された施設を改良しつつ続けられている。また、工事命令後始められた煙害地の植林も自溶炉導入後に本格化し、国・県・古河のみならず今日では多くのボランティアが参加し、徐々に緑は回復しつつある。

足尾銅山の建造物群は単なる近代産業の記念物ではない。公害反対運動の中軸となった渡良瀬川下流域の遺跡等とともに、その景観は20世紀の縮図であり、我々人類が21世紀になすべきことを示している現在進行形の遺産なのである。（提案書より）

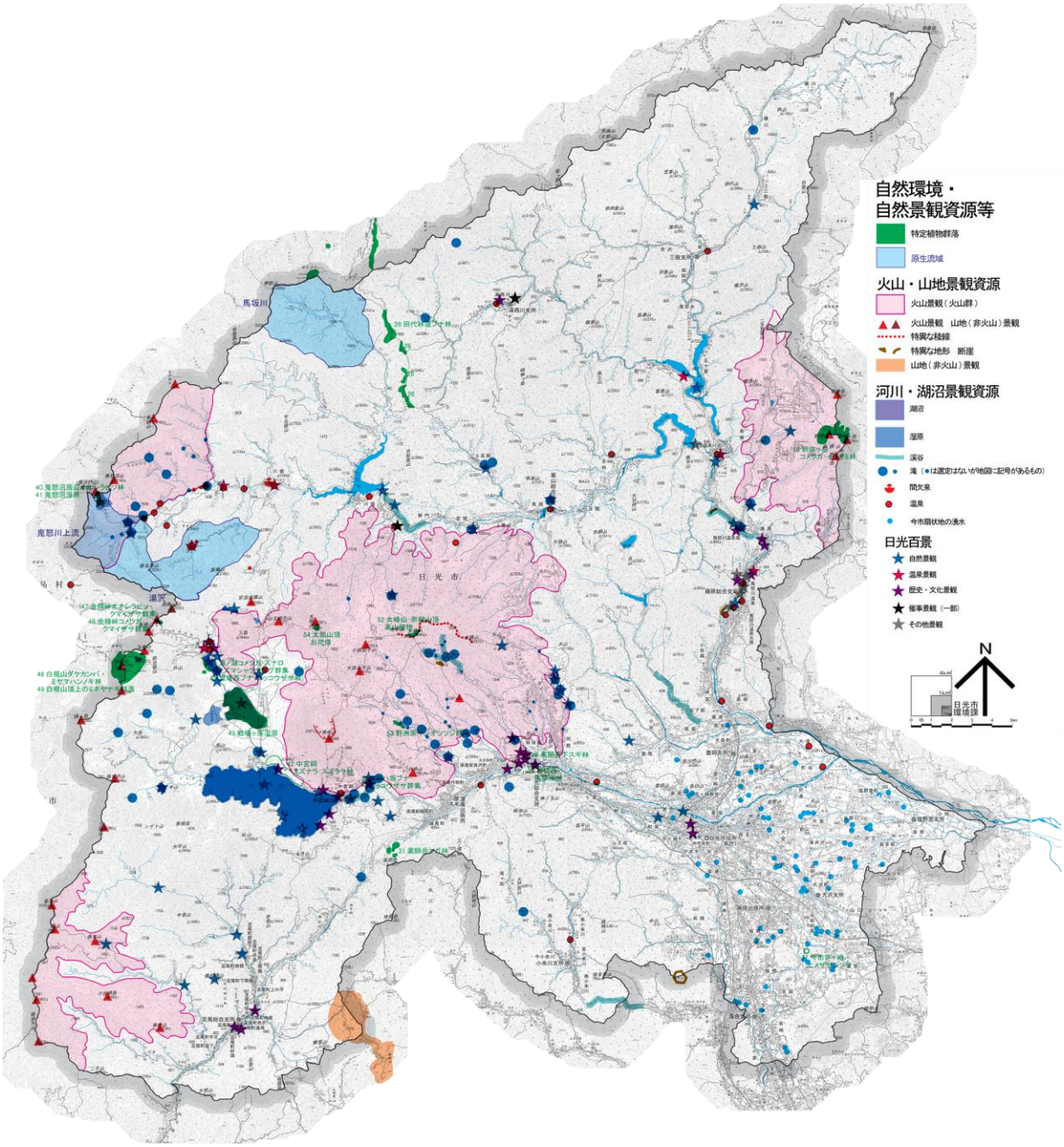
2) 自然景観資源・貴重な自然等

当市域の大半は山岳地帯で、中・古生代に形成された非火山性の下野山地（帝釈山、荒海山、男鹿岳等）が太平洋側と日本海側の分水嶺を成し、その東側から南側を囲むように第四紀の火山群である那須火山、高原火山、日光火山が並んでいます。また、大谷川を境にして南部は中・古生代の足尾山地ですが、その西部には第四紀初期の火山（皇海山、庚申山、袈裟丸山）が並んでいます。

低地は、大谷川からの大量の土砂が山間地を埋積して形成した今市扇状地が南東部に広がっているほかは、各河川沿いの谷底平野からなっています。

標高は、最低部は行川の谷で約200m、最高部が白根山で2,578mとなり、その差は約2,380mになります。

この標高差や多彩な地形とともに、四季折々の寒暖の差が、多様で美しい自然景観や優れた自然環境を形成し、貴重な自然や良好な生態系を維持しています。



栃木県自然環境保全地域

（栃木県HPより）

	面積（ha）	うち特別地区	うち普通地区	主要保全対象
袈裟丸山	204	204	0	高山性植物又は亜高山性植物、特異な地形、地質、希少植物の自生地、野生動植物の生息地
湯西川	589	151	438	トチノキの原生林、冷温帯の自然植生
弁天沼	8	0	8	希少植物自生地、カラカネイトトンボ生息・生育地
小代	0.02	0.02	0	シモツケコウホネの群落、マツカサガイの生息地又は生育地

特定植物群落

出典：環境省自然環境保全基礎調査（緑の国勢調査）第5回特定植物群落調査報告書より

特定植物群落名	集約群落名	選定基準	分布地域
今市平ヶ崎のヒメザゼンソウ	常緑針葉樹植林	特殊立地，乱獲のおそれ	今市地域
いろは坂のブナ・ニッコウザサ群集	スズタケーブナ群団	自然林	日光地域
金精峠のオオシラビソ・クマイザサ群集	シラビソートウヒ群団	自然林	
金精峠のコメツガ・クマイザサ群集	シラビソートウヒ群団	自然林	
女峰山・帝釈山頂の高山植物	高山低木群落高山ハイデ及び風衝草原	特殊立地，貴重な個体群	
神橋西の落葉樹林	アカシデーイヌシデ群落	郷土景観	
戦場ヶ原湿原	ツルコケモモーミズゴケクラス（高層湿原）	特殊立地，貴重な個体群	
太郎山頂のお花畑	ヌマガヤオーダー（中間湿原）	特殊立地	
中宮祠のミズナラ・スズタケ林	ヨシクラス（低層湿原・セイコノヨシを含む）	自然林	
東照宮下のスギ林	シナノキンバイーミヤマキンポウゲ群団（高茎草原）	植栽	
湯ノ湖のコメツガ・アスナロ・アズマシャクナゲ群集	スズタケーブナ群団	自然林	
湯滝西のブナ・ニッコウザサ林	常緑針葉樹植林	自然林	
白根山のダケカンバ・ミヤマハンノキ群落	シラビソートウヒ群団	自然林	
白根山頂上のミネヤナギ群落	ササーダケカンバ群落	特殊立地	
野州原のヤシオツツジ群落	ミドリユキザザーダケカンバ群落（なだれ地広葉低木林）	貴重な個体群	
薬師岳のツガ林	高山低木群落	自然林，分布限界，貴重な個体群	
釈迦ヶ岳のコメツガ・イラモミ林	シラビソートウヒ群団	貴重な個体群	藤原地域
薬師岳のツガ林	スズタケーブナ群団	自然林，分布限界，貴重な個体群	足尾地域
鬼怒沼湿原	シラビソートウヒ群団ツルコケモモーミズゴケクラス（高層湿原）ヌマガヤオーダー（中間湿原）ヨシクラス（低層湿原：セイコノヨシを含む）	特殊立地	栗山地域
鬼怒沼周辺のオオシラビソ林	シラビソートウヒ群団	自然林，貴重な個体群	
女峰山・帝釈山頂の高山植物	高山低木群落高山ハイデ及び風衝草原	特殊立地，貴重な個体群	
太郎山頂のお花畑	シナノキンバイーミヤマキンポウゲ群団（高茎草原）	特殊立地	
田代林道のブナ林	チシマザサーブナ群集	自然林	

原生流域

出典：同上調査河川調査報告書より

名称・面積	位置	保全地域等	植生等
湯沢 1,160ha	川俣温泉の南、手白山・根名草山・高薙薙山に囲まれた湯沢川の集水域	日光国立公園特別保護地区及び第1種特別地域	海抜1,500mの噴泉塔の周辺までブナ・ミズナラ林が優先している。また、カエデの種類が豊富であり、紅葉の素晴らしい地域である。 これより高所では、アスナロ・クロベ林、1,900mあたりからはコメツガ・オオシラビソ林になる。
鬼怒川上流部 1,001 ha	群馬県境、物見山・燕巣山・根名草山に囲まれた鬼怒川源流部の集水域	日光国立公園第1種及び第2種特別地域	海抜1,600m周辺まではブナ・ミズナラ林が優先している。これより高所ではアスナロ・クロベ林やコメツガの極相林に移り、1,900m以上はオオシラビソ林になる。この地域の針葉樹林は県内では最大規模の原生林である。 鬼怒沼は日本一の高所にある高層湿原であり、貴重な植物が豊富である。

3) 水循環・水資源

●表流水（河川、流域等）

河川は、足尾地域を水源とする渡良瀬川と、栗山・藤原地域の山地を水源とする鬼怒川の2つの水系に大別されます。

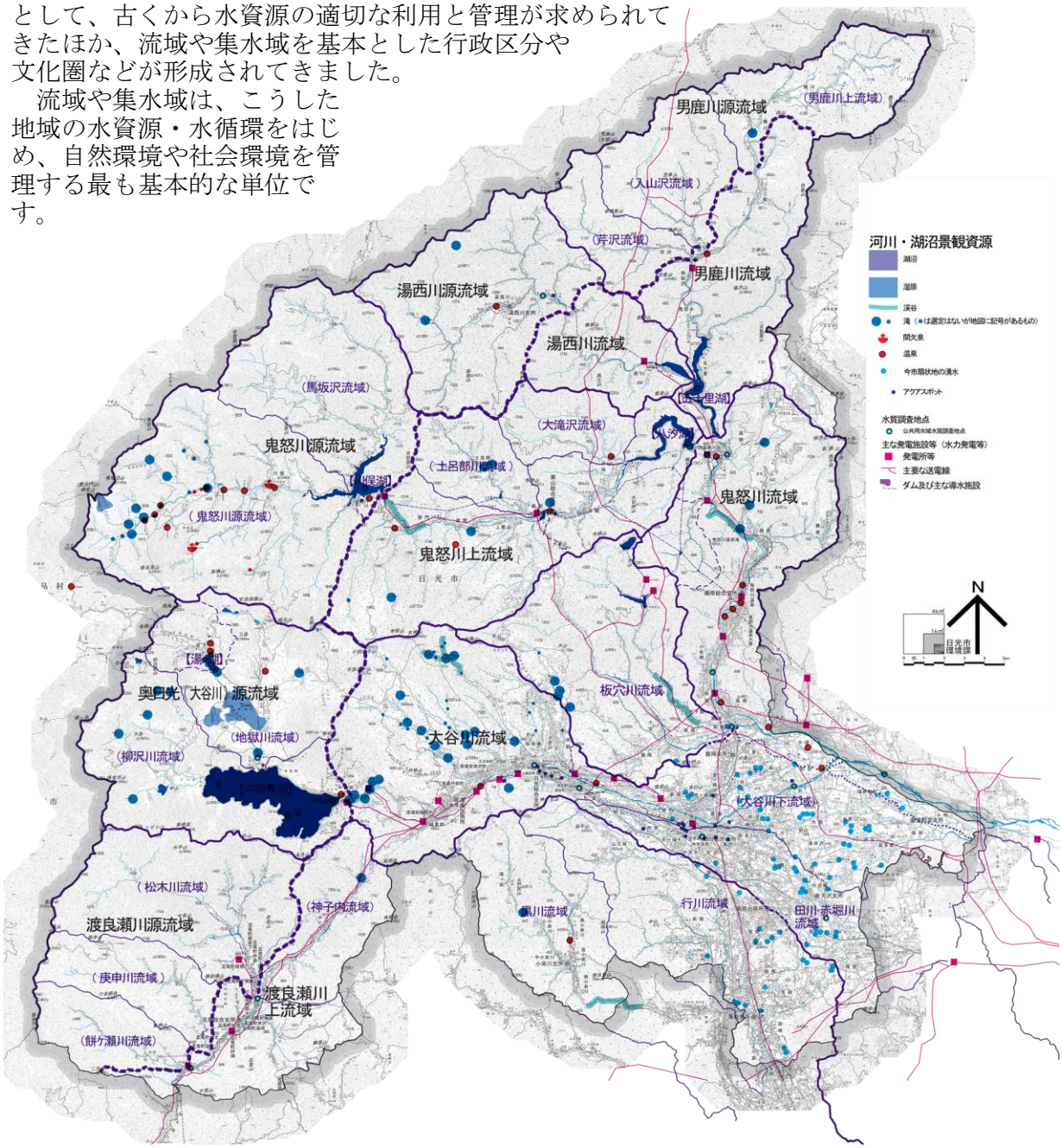
鬼怒川の支流である大谷川は、奥日光を源流として日光市街を流下しているほか、田川は今市扇状地を東流し、赤堀川を合わせて県都宇都宮市街を流下しています。南部の三ノ宿山や鳴虫山の山地に水源を発する黒川や行川は、渡良瀬遊水池で渡良瀬川に合流しています。

このように、当市は各河川の源流域や水源域に位置するほか、湯ノ湖や中禅寺湖などの湖沼、湿原、数多くの滝や渓流、湧水など、優れた自然と一体となった水辺景観や水環境に恵まれています。

水は、人間をはじめ動植物の体内や自然界を循環しながら、地域から地球規模のエネルギーや栄養塩等物質の循環を維持するなど重要な役割を果たしています。

そのため、人々の生活や産業にとって必要不可欠な資源として、古くから水資源の適切な利用と管理が求められてきたほか、流域や集水域を基本とした行政区分や文化圏などが形成されてきました。

流域や集水域は、こうした地域の水資源・水循環をはじめ、自然環境や社会環境を管理する最も基本的な単位です。



【鬼怒川水系】

鬼怒川	清水川	
	大谷川	志渡淵川、丸見川、鳴沢川、赤沢川、稲荷川、田母沢川、荒沢川、左沢川
		中禅寺湖以上：柳沢川、外山沢川、湯川（地獄川、逆川、白根川）
	古大谷川	
	板穴川	砥川（シャジ沢川、ハタ沢川、ネベ沢川、二の沢川）、小百川、石見川
	男鹿川	湯西川（三河沢川、悪至沢川）
	川治ダム以上	田茂沢川、稲ヶ沢川、野尻川、江戸川、土呂部川、野門沢川、大事沢川、馬坂川、湯沢川
赤堀川	弁天川	
田川		

【渡良瀬川水系】

渡良瀬川	餅ヶ瀬川	畑沢
	巣上沢	
	庚申川	滝沢
	内籠川	
	神子内川	
	久蔵川	
	仁田元川	
武子川	板橋川	
行川	長畑川	西沢川
	荒川	
黒川	西黒川	

【参考】主な流域と地域との関係

水系	流域	主な地域
鬼怒川水系	鬼怒川上流域	栗山地域
	湯西川流域	
	男鹿川流域	藤原地域
	鬼怒川流域	
	板穴川流域	今市地域
	大谷川上流域	日光地域
	大谷川中流域	
	大谷川下流域	今市地域
	田川･赤堀川流域	
渡良瀬川水系	黒川流域	日光地域
	行川流域	日光・今市
	渡良瀬川上流域	足尾地域
	神子内川流域	
	松木川流域他	

●湖沼、池、湿地

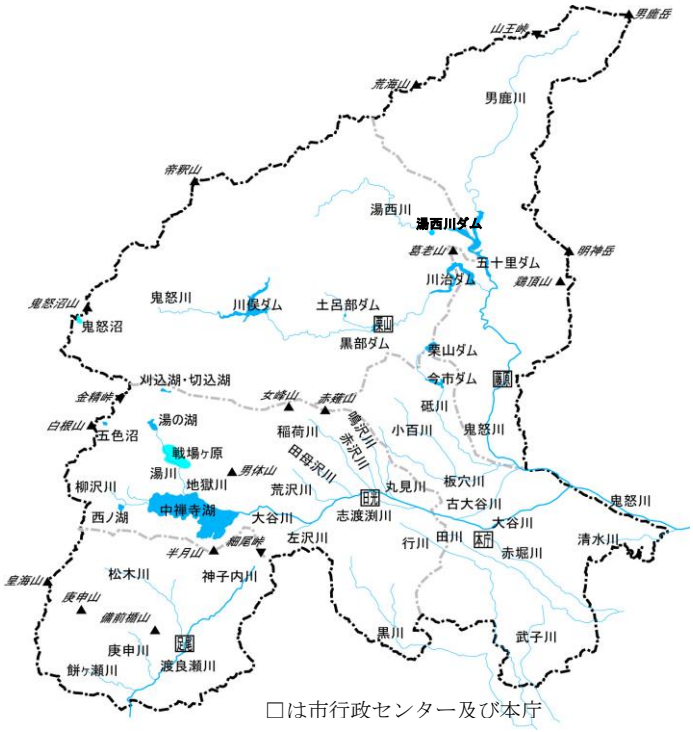
中禅寺湖は2万年程昔の男体山の噴火により渓谷がせき止められて出来た天然湖です。周囲約25キロ、最大水深163m、面積11.5k㎡を誇る県内最大の湖です。

水面の海抜高度1,269mは、国内の人工湖を除く面積4 km^2以上の湖のなかで最高です。

中禅寺湖の上流に位置する戦場ヶ原の湿原や湯ノ湖、五色沼、西ノ湖、刈込湖、切込湖なども、火山活動によって形成された天然の湖沼です。

豊富な水資源の活用や防災のため、各地にダムと貯水池（ダム湖）が作られてきました。それらの規模は、男鹿川の五十里ダム、鬼怒川の川治ダムと川俣ダムが特に大きく、次いで砥川の栗山ダムと今市ダム、土呂部川の土呂部ダム、鬼怒川の黒部ダムなどが続きます。

また、平成24年度に新たに湯西川ダムが運用を開始しました。

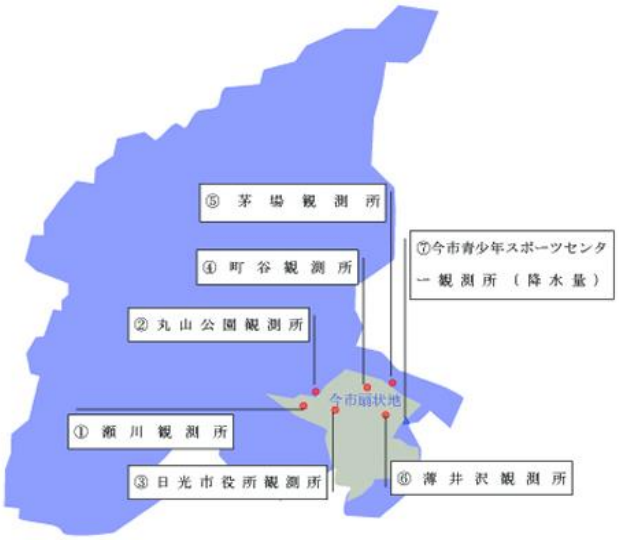


●地下水・湧水等

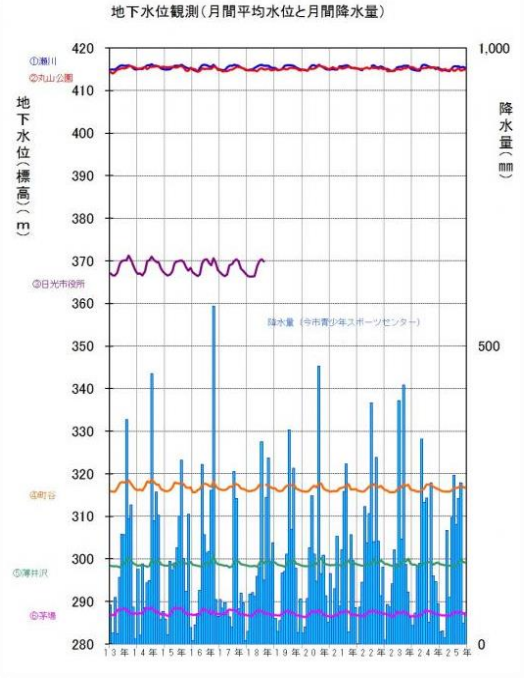
地下水位の観測

地下水は、河川を流れる表流水等とともに、重要な水源のひとつです。
日光市内でも、特に今市地域において、生活用水や工業用水などの水源として、地下水が多く利用されています。

市では、安定した水源の確保を図るとともに、今後の水資源の利用計画に役立てるため、市内に5カ所の地下水位観測所を設置し、平成13年から今市扇状地における地下水位観測を行っています。

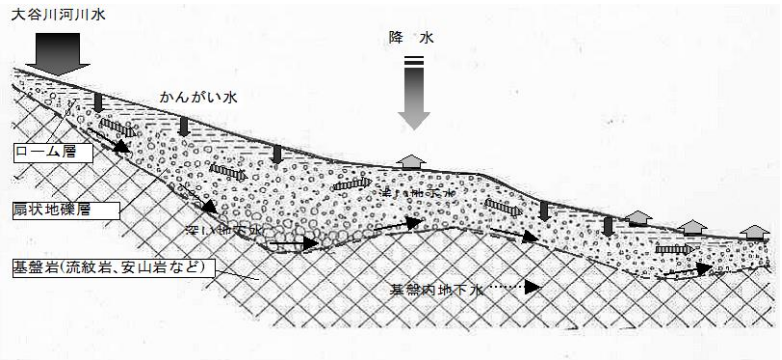


※平成18年以前は日光市役所（旧今市市役所）に観測所を設置していましたが、合併時の庁舎整備の際に閉鎖しました。



（日光市HPより）

今市扇状地の地下水の構造



- ローム層を通じての降水、かんがい水の浸透
- 比較的浅い地下水の流れ
- 比較的深い地下水の流れ
- 基盤内の地下水の流れ
- 湧水

今市扇状地は、大谷川の沖積作用により形成された扇状地です。一般の扇状地に共通する特性（地形・地質的性質）と、他の扇状地には見られない地質構造的に複雑な様相からなる特殊な性質をもっています。

扇央から扇端にかけた地域の扇状地面上に、埋め残された基盤に連なる残丘地形が数多く突出しています。この残丘状の地形が今市扇状地の地下水流動を特徴づけています。基盤上の谷筋は、現在の河道とほぼ一致し、砂礫層も厚く堆積している部分は、扇状地形成過程を通じても河道であり続けた可能性が大きいといえます。また、こうした基盤地形上の谷筋付近の谷底深度における地層の透水性は特に大きくなっています。

川が土砂を運搬・堆積して形成された扇状地においては、河川が地下水のかん養に大きな影響をもたらします。一般に、扇状地を流れる川は、地下水面よりも高いところにあり、地中に浸透していく失水河川の形となっています。

しかし、大谷川では、失水河川の形だけではなく、地下水が河川に流出している得水河川（地下水面が河川よりも高く、川に地下水が流出している）の形になっているところもあります。このことは、今市扇状地特有の複雑な基盤形態をはじめ、水田かんがい用水による地下水面の上昇などによるものと考えられています。

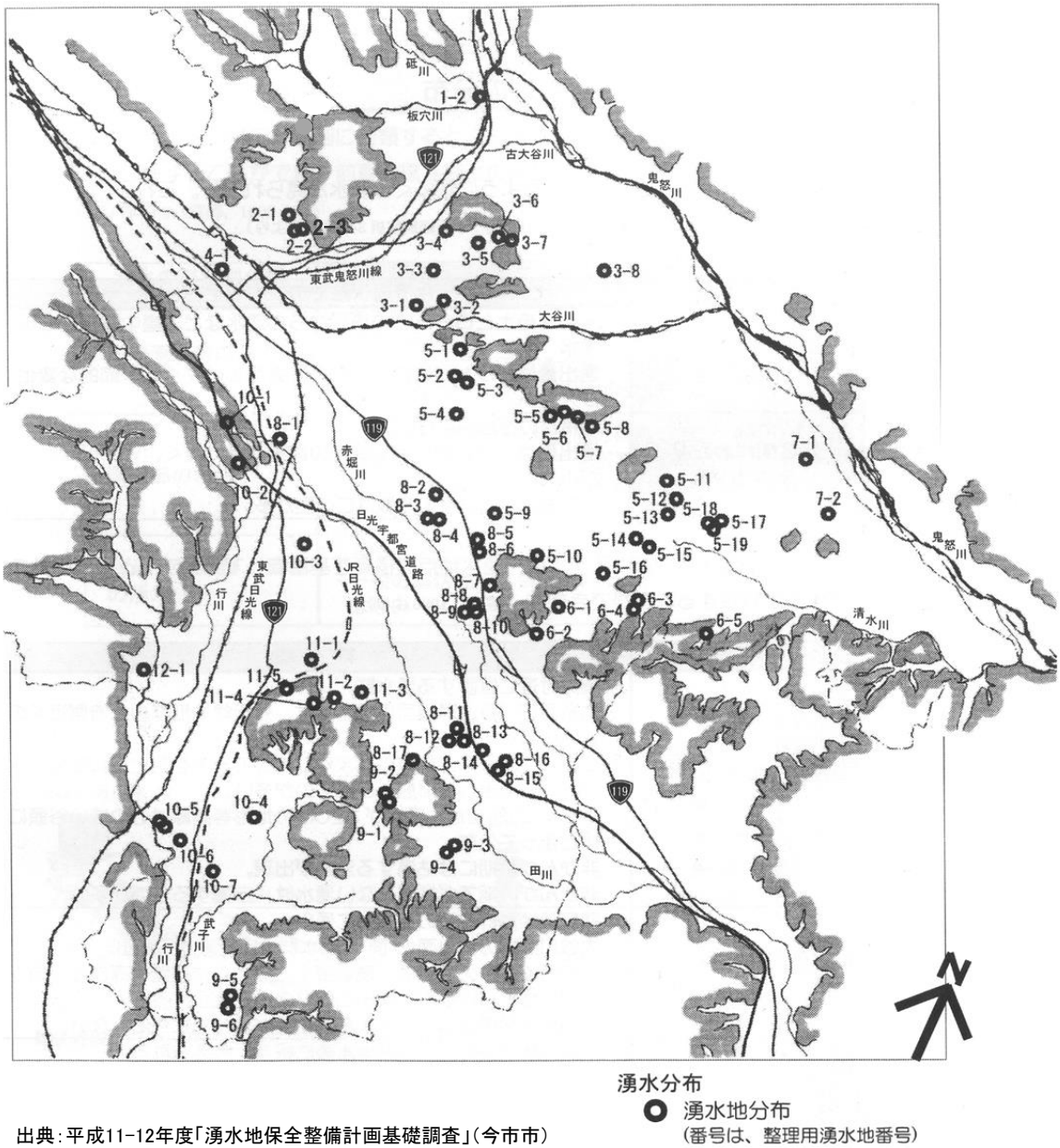
こうした今市扇状地の地下水の特徴を整理すると次のようになります。

- 今市扇状地は、大谷川によって運ばれた砂れきが谷合いの低地を埋めながら形成された扇状地で、扇状地の平野に点在している丘は、埋め残された山頂部からなっています。
- 過去の地殻変動などにより山地内部に形成された基盤を持つため、基盤地形に凹凸があり、地形面と地下水面が1対1の関係になっていません。
- 地下水滞水層である砂れき層が厚く堆積し、ほとんどが自由面地下水層（不圧地下水）からなり、水面の通気帯と直接接し，自由に上下できる地下水面を持つ地下水で、地表面からの浸透に大きく影響を受ける構造となっています。
- また、かつての谷を形成していた山地が地中に埋没しているため、天然の地下ダムのような構造になっています。
- 河川、水田、降水、かんがい水路が地下水の水源となっていますが、河川や降水よりも水田の影響を非常に大きく受けています。
- 河川水から地下水に流入する区域のほかに、湿潤な地域のように地下水から河川水に流入する区域も存在します。さらに、季節によってその流入が相互に変化する区域もあります。
- 地下水の流速は、一般的な扇状地の場合と大きな差はありませんが、多様な水源の影響により地下水が流去しても補完されることなどから天然の地下ダムのようになっている地域もあります。

今市扇状地の地下水の流動・湧出

- 地下水位は一般的な扇状地の傾向を有していますが、地形的な特徴により局地的に湧出しているところもあります。
- 特徴的な構造により、通常の扇状地とは異なり、扇端部に湧水が見られるだけでなく、平野部の各所に湧水があり、古くから生活用水や農業用水として、また、わさび畑や養魚場などとして利用されてきていましたが、用水等の整備により利用されなくなり、荒廃している湧水地も見られます。反面、これらの恵まれた資源である湧水を活かした地域整備なども進められてきています。
- 各観測所とも、乾期である冬季に地下水位が最も低下し、4月以降の稲作が始まると急激に地下水位が高くなり、10月以降減少しています。
- 北部の大谷川沿いでは、冬季と夏季の地下水位の変動量は1m前後と比較的少なく、大谷川の伏流水の影響を受けているといえます。
- 夏季は、降水量によっても地下水位の上下は左右されますが、全般的には、水田や農業用水路からの浸透に大きく影響を受けている傾向があります。
- 稲作が終わる秋以降は、台風や秋の長雨などの降水に影響を受けながら、順次地下水位を下げています。

【今市扇状地における湧水の分布図】

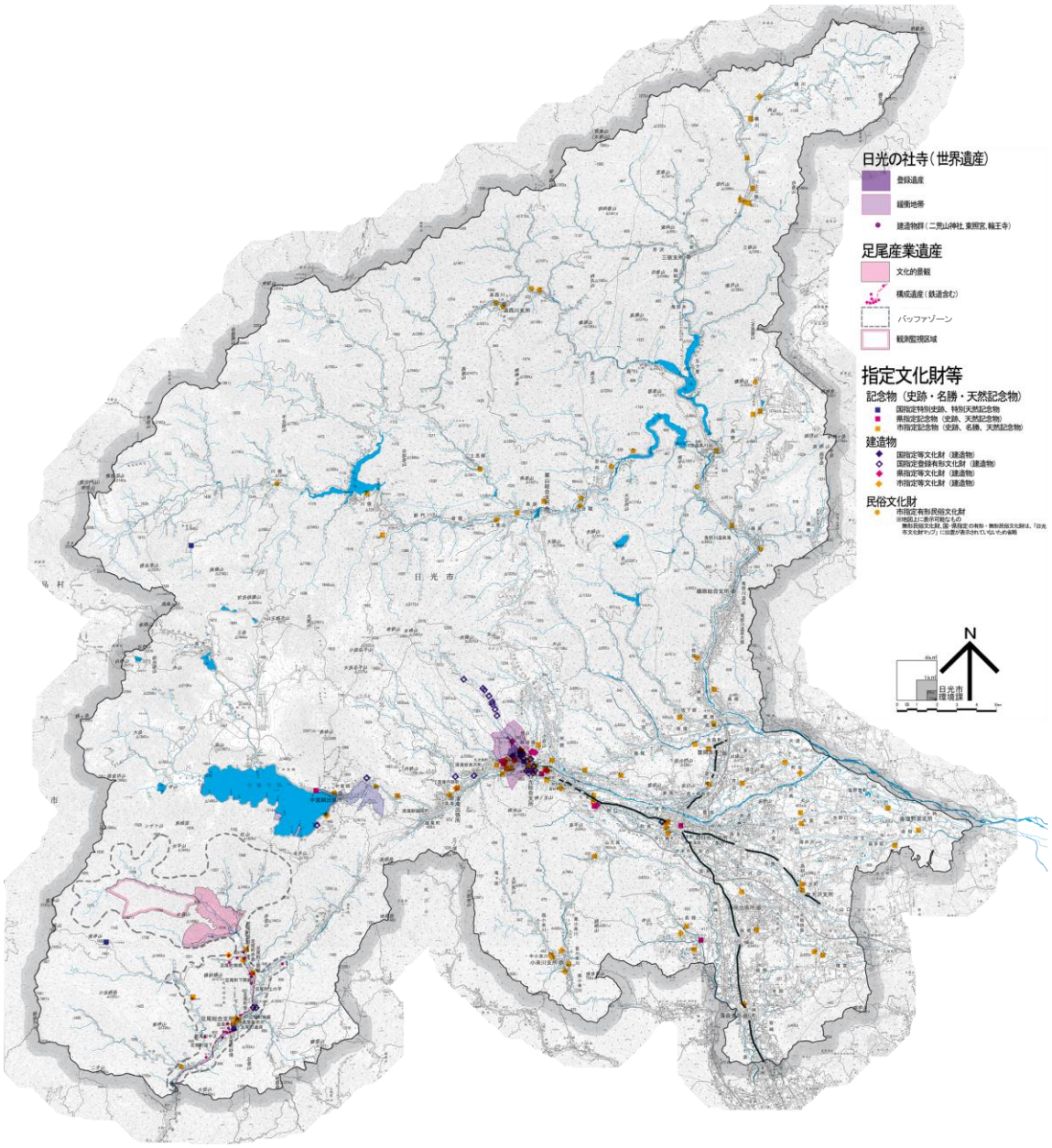


出典：平成11-12年度「湧水地保全整備計画基礎調査」（今市市）

4) 歴史文化環境

当市には、世界遺産である「日光の社寺」をはじめ、日本の近代化・産業化と公害対策の起点である足尾銅山の歴史と遺産、国特別史跡・特別天然記念物「日光杉並木街道」など、世界に誇れる数多くの歴史文化遺産が継承されてきています。

日光山内にある二荒山神社、東照宮、輪王寺の103棟（国宝9棟、重要文化財94棟）の建造物群と、これらの建造物群を取り巻く遺跡（文化的景観）は、「日光の社寺」として1999（平成11）年12月世界遺産に登録されました。また、足尾銅山について、「世界文化遺産国内暫定一覧表」への追加記載の提案書を、市と県の共同で文化庁へ提出しています。



【名勝・史跡】

出典：日光市文化財マップ（平成31年3月改訂 日光市教育委員会発行）

	名称	指定年月日	所在地
国指定史跡	日光杉並木街道　附　並木寄進碑 ※特別史跡・特別天然記念物	昭和27年3月29日	日光市
	日光山内	平成10年5月14日	日光市山内
	足尾銅山跡　通洞坑　宇都野火薬庫跡 本山坑　本山動力所跡　本山製錬所跡 本山鉱山神社跡	平成20年3月28日 （平成26年3月18日 追加指定・名称変更）	日光市足尾町通洞ほか
国指定名勝	華厳瀑及び中宮祠湖（中禅寺湖）湖畔	昭和6年3月30日	日光市中宮祠
	おくのほそ道の風景地　ガンマンガ淵（慈雲寺境内）	平成26年3月18日	日光市匠町
県指定史跡	二宮尊徳の墓	昭和32年6月30日	日光市今市
	釈迦堂殉死の墓及び譜代家臣の墓	昭和56年10月27日	日光市本町
市指定史跡	二宮堀付水神碑	昭和40年3月6日	【水神碑】日光市平ケ崎
	沢蔵司稲荷仕法の跡	昭和40年3月6日	日光市今市
	板橋城跡付板橋将監の塔	昭和40年3月6日	日光市板橋
	轟城跡	昭和41年12月10日	日光市轟
	二宮林	昭和45年3月14日	日光市土沢
	一字一石塔	平成13年7月18日	日光市小百
	座禅院権別当の墓	昭和35年8月22日	日光市匠町
	鉢石	昭和43年3月16日	日光市中鉢石町
	かけなしの遺跡（含石仏・石碑）	昭和49年6月6日	日光市所野
	末社北野神社石造群	平成15年7月23日	日光市山内
	首切地蔵尊（付）六地蔵尊・経塔	昭和42年3月17日	日光市所野
	南山通り横川一里塚	昭和48年2月16日	日光市横川
	鶴が渕城址	昭和48年2月16日	日光市上三依
	南山通り上三依一里塚	昭和48年2月16日	日光市上三依
	高原磁石石	昭和48年2月16日	日光市川治温泉高原
	旧高原問屋屋敷跡	昭和48年2月16日	日光市川治温泉高原
	大橋静庵墓碑	昭和54年10月1日	日光市川治温泉川治
	小滝坑跡	昭和51年3月15日	日光市足尾町水山
	間藤水力発電所跡	昭和53年3月30日	日光市足尾町タル
	川俣愛宕山	昭和49年3月31日	日光市川俣
	黒部上栗山　愛宕山	平成16年6月8日	日光市黒部
	伽羅瀧不動尊	平成16年6月8日	日光市日蔭
	日光奉行所跡	昭和35年8月22日	日光市安川町
	稲荷川水難供養塔	昭和41年6月27日	日光市石屋町
	防火隊碑	昭和42年2月15日	日光市匠町
	焼加羅の碑	昭和49年6月6日	日光市花石町
	鋳銭座と足字銭	昭和51年3月15日	日光市足尾町赤沢
	代官所跡（足尾陣屋跡）	昭和51年3月15日	日光市足尾町松原
市指定名勝	龍王峡	昭和50年11月25日	龍王峡

【国指定文化財・登録文化財：建造物、無形民俗文化財、登録建造物等】

	名称	指定年月日	所在地
国宝建造物	東照宮本殿、石之間、拝殿	昭和26年6月9日	日光市山内
	東照宮正面及び背面唐門	昭和26年6月9日	日光市山内
	東照宮東西透塀	昭和26年6月9日	日光市山内
	東照宮陽明門　附旧天井板二枚	昭和26年6月9日	日光市山内
	東照宮東西廻廊	昭和26年6月9日	日光市山内
	輪王寺大猷院霊廟（本殿、相の間、拝殿）	昭和27年11月22日	日光市山内
重要文化財建造物	東照宮（奥社、仮殿、御旅所を含む）	昭和25年8月29日	日光市山内
	二荒山神社（別宮滝尾神社、別宮本宮神社、中宮祠を含む）	昭和25年8月29日	日光市山内
	輪王寺（開山堂、常行堂、法華堂慈眼堂、児玉堂を含む）	昭和25年8月29日	日光市山内
	輪王寺大猷院霊廟	昭和25年8月29日	日光市山内
	東照宮旧奥社（唐門、鳥居）	昭和48年6月2日	日光市山内
	輪王寺（護法天堂・観音堂・三重塔・大猷院霊廟別当所竜光院）	昭和48年6月2日	日光市山内
	二荒山神社（神輿舎・大国殿・末社朋友神社本殿・末社日枝神社本殿・別宮本宮神社拝殿・別宮本宮神社鳥居）	昭和48年6月2日	日光市山内
	旧日光田母澤御用邸　御座所、御食堂、皇后御座所、謁見所、内謁見所、皇族及び臣下休所、御車寄、主殿寮、調理所、女官部屋	平成15年12月25日	日光市本町
	古河橋	平成26年1月27日	日光市足尾町赤倉
重要無形民俗文化財	川俣の元服式	昭和62年1月8日	日光市川俣

【国指定文化財・登録文化財：建造物、無形民俗文化財、登録建造物等】　※つづき

	名称	指定年月日	所在地
登録建造物	イタリア大使館別荘記念公園本邸	平成13年8月28日	日光市中宮祠
	稲荷川第六砂防堰堤	平成14年8月21日	日光市大字天狗沢・中鈴
	稲荷川第四砂防堰堤	平成14年8月21日	日光市大字中鈴
	稲荷川第二砂防堰堤	平成14年8月21日	日光市大字帰ル沢・中鈴
	稲荷川第三砂防堰堤	平成14年8月21日	日光市大字中鈴
	稲荷川第十砂防堰堤	平成14年8月21日	日光市大字赤薙日向・釜ッ沢
	釜ッ沢下流砂防堰堤	平成14年8月21日	日光市大字釜ッ沢
	釜ッ沢砂防堰堤	平成14年8月21日	日光市大字釜ッ沢
	丹勢山砂防堰堤	平成15年1月31日	日光市丹勢町地先
	大久保砂防堰堤	平成15年1月31日	日光市丹勢町地先
	小米平砂防堰堤	平成15年1月31日	日光市日光地先
	方等上流砂防堰堤	平成15年1月31日	日光市二荒山地先
	東照宮武徳殿	平成17年2月9日	日光市山内
	日光金谷ホテル本館	平成17年11月10日	日光市上鉢石町
	日光金谷ホテル新館	平成17年11月10日	日光市上鉢石町
	日光金谷ホテル観覧亭（竜宮）	平成17年11月10日	日光市上鉢石町
	日光金谷ホテル展望閣	平成17年11月10日	日光市上鉢石町
	日光金谷ホテル別館	平成17年11月10日	日光市上鉢石町
	日光市庁舎本館（旧日光行政センター）	平成18年3月2日	日光市中鉢石町
	日光物産商会店舗	平成18年3月2日	日光市上鉢石町
	宇都宮市水道資料館（旧管理事務所）	平成18年10月18日	日光市瀬川
	レストラン明治の館（旧ホーン家住宅主屋）	平成18年10月18日	日光市山内
	レストラン明治の館別館游晏山房（旧ホーン家住宅別棟）	平成18年10月18日	日光市山内
	仏蘭西懐石ふじもと（旧ホーン家住宅ガレージ棟）	平成18年10月18日	日光市山内
	古河掛水倶楽部新館	平成18年10月18日	日光市足尾町
	古河掛水倶楽部旧館	平成18年10月18日	日光市足尾町
	旧東武鉄道下小代駅駅舎	平成21年4月28日	日光市小代
	わたらせ渓谷鐵道第一松木川橋梁	平成21年11月2日	日光市足尾町字田元
	わたらせ渓谷鐵道足尾駅本屋及び上り線プラットホーム	平成21年11月2日	日光市足尾町掛水字上掛水
	わたらせ渓谷鐵道足尾駅貨物上屋及びプラットホーム	平成21年11月2日	日光市足尾町掛水字上掛水
	わたらせ渓谷鐵道足尾駅下り線プラットホーム	平成21年11月2日	日光市足尾町掛水字上掛水
	わたらせ渓谷鐵道足尾駅手小荷物保管庫	平成21年11月2日	日光市足尾町掛水字上掛水
	わたらせ渓谷鐵道足尾駅危険品庫	平成21年11月2日	日光市足尾町掛水字上掛水
	わたらせ渓谷鐵道渋川橋梁	平成21年11月2日	日光市足尾町赤沢、松原
	わたらせ渓谷鐵道通洞駅本屋及びプラットホーム	平成21年11月2日	日光市足尾町松原字新梨子裏
	わたらせ渓谷鐵道通洞橋梁	平成21年11月2日	日光市足尾町中才
	わたらせ渓谷鐵道有越沢橋梁	平成21年11月2日	日光市足尾町中才
	わたらせ渓谷鐵道第二渡良瀬川橋梁	平成21年11月2日	日光市足尾町遠下、小ナギ
	わたらせ渓谷鐵道笠松トンネル	平成21年11月2日	日光市足尾町字片向、群馬県みどり市東町沢入字峠向
	金谷侍屋敷主屋（旧金谷カッテージイン主屋）	平成26年4月25日	日光市本町
	金谷侍屋敷土蔵（旧金谷カッテージイン土蔵）	平成26年4月25日	日光市本町
	足尾キリスト教会	平成26年4月25日	日光市足尾町赤沢
	篠原家住宅主屋	平成28年2月25日	日光市稲荷町
	篠原家住宅石蔵	平成28年2月25日	日光市稲荷町
	足尾銅山電話資料館（旧足尾銅山電話交換所）	平成28年11月29日	日光市足尾町
	旧足尾銅山鉱業事務所付属書庫	平成28年11月29日	日光市足尾町
	旧本山小学校講堂	平成28年11月29日	日光市足尾町
	東武鉄道下今市駅旧跨線橋	平成29年10月27日	日光市今市
	東武鉄道大谷向駅下りプラットホーム	平成29年10月27日	日光市今市
	東武鉄道大谷向駅上りプラットホーム	平成29年10月27日	日光市今市
	東武鉄道砥川橋梁	平成29年10月27日	日光市大桑町、栗原
	東武鉄道大桑駅プラットホーム	平成29年10月27日	日光市大桑町
	東武鉄道新高徳駅プラットホーム及び上家	平成29年10月27日	日光市高徳
	東武鉄道小佐越駅プラットホーム	平成29年10月27日	日光市鬼怒川温泉大原
	旧東照宮宝物館	平成30年5月10日	日光市山内

【県指定文化財：建造物、民俗文化財等】

	名称	指定年月日	所在地
有形文化財建造物	興雲律院鐘楼門	昭和47年7月14日	日光市萩垣面
	興雲律院三天堂（駒堂）	昭和49年7月5日	日光市萩垣面
	興雲律院経蔵	昭和49年7月5日	日光市萩垣面
	輪王寺行者堂	昭和50年1月28日	日光市山内
	輪王寺観音堂（香車堂）	昭和50年1月28日	日光市山内
	釈迦堂	昭和56年10月27日	日光市本町
	釈迦堂表門	昭和56年10月27日	日光市本町
	日光真光教会礼拝堂	昭和57年8月27日	日光市本町
	日枝神社本殿	昭和58年7月19日	日光市野口
	観音寺虚空蔵堂	昭和58年12月2日	日光市稲荷町
	旧古河鉱業会社足尾銅山掛水重役役宅６　附　変電施設建屋１、倉庫２	平成22年2月9日	日光市足尾町
有形民俗文化財	杓子つくり道具	昭和39年12月8日	日光市湯西川
無形民俗文化財	川俣の三番叟恵比須大黒舞	昭和52年7月29日	日光市川俣
	川俣今宮様のオコモリ	平成9年1月21日	日光市川俣
	日光弥生祭付祭家体献備行事	平成11年8月17日	日光市山内
選択無形民俗文化財	杓子つくり	昭和39年12月8日	日光市湯西川
	湯西川湯殿山神社祭礼	昭和43年11月5日	日光市湯西川

【市指定文化財；有形文化財（建造物他）】

	名称	指定年月日	所在地
有形文化財 建造物	報徳役所書庫	昭和40年3月6日	日光市今市
	報徳仕法農家住宅	昭和47年10月28日	日光市町谷
	文挟宿郷倉（社倉）	昭和55年10月27日	日光市文挟町
	西沢神社本殿	平成6年6月14日	日光市長畑
	今市瀧尾神社石造明神鳥居	平成7年3月10日	日光市今市
	石造　仁王像2、勝軍地蔵、狛犬2、石社殿	平成18年3月3日	日光市石屋町
	石造　勝軍地蔵、石社殿	平成18年3月3日	日光市中小来川
	日光型庚申塔	平成18年3月3日	日光市稲荷町
	石造　仁王像2、勝軍地蔵、狛犬2、石社殿、その他4	平成18年3月3日	日光市中鉢石町
	石造　阿弥陀如来坐像1、地蔵菩薩坐像2	平成18年3月3日	日光市匠町
	日光型庚申塔4、庚申燈篭1	平成18年3月3日	日光市匠町
	石造　地蔵菩薩坐像	平成18年3月3日	日光市清滝一丁目
	石造　僧形像1、五輪塔8、宝篋印塔2	平成18年3月3日	日光市清滝一丁目
	六角型燈篭	平成18年3月3日	日光市本町
	日光型庚申塔	平成18年3月3日	日光市山内
	石造　閻魔像1、十王像、その他4	平成18年3月3日	日光市石屋町
	石祠（修験）	平成18年3月3日	日光市上鉢石町
	石造　不動明王立像、護摩壇、石祠	平成18年3月3日	日光市上鉢石町
	石造　不動明王立像、護摩壇	平成18年3月3日	日光市山内
	石造　不動明王坐像、護摩壇	平成18年3月3日	日光市中宮祠
	石造　仁王像2、勝軍地蔵、狛犬2、その他4	平成18年3月3日	日光市安川町
	宝篋印塔	平成18年3月3日	日光市南小来川
	石造向山天神社（石造 天神坐像１、石造 台座１、石祠１、銅製　棟札１、花立１、供物台１）	平成18年3月3日	日光市匠町（浄光寺境内）
	横川如意輪観音堂	平成元年6月30日	日光市横川
	小佐越滝尾神社本殿附石鳥居	平成2年12月6日	日光市小佐越
	本山 鉱山神社	昭和52年4月1日	日光市足尾町本山
	簀の子橋神社鳥居	昭和61年3月1日	日光市足尾町赤沢
無形民俗文化財 芸能	文挟流手岡獅子舞	昭和41年12月10日	日光市手岡
	関白流小林獅子舞	昭和41年12月10日	日光市小林
	関白流関ノ沢獅子舞	昭和47年10月28日	日光市町谷
	関白流原宿獅子舞	昭和47年10月28日	日光市原宿
	関白流平ヶ崎獅子舞	昭和47年10月28日	日光市平ヶ崎
	今市地方田植唄	昭和59年7月4日	旧今市市内全域
	文挟流芹沼獅子舞	昭和61年8月2日	日光市芹沼
	文挟流沢又獅子舞	昭和61年8月2日	日光市沢又
	関白流中猪倉獅子舞	昭和61年8月2日	日光市中猪倉
	小倉三所神社神事弓取り童子	平成3年12月12日	日光市小倉
	西小来川の獅子舞	昭和52年12月8日	日光市西小来川
	東小来川の獅子舞	昭和52年12月8日	日光市東小来川
	所野の獅子舞	昭和54年3月15日	日光市所野
	関白流三依獅子舞	昭和55年10月1日	日光市中三依
	三依かえし音頭	平成17年12月1日	日光市三依地区
	湯西川上の獅子舞	昭和40年3月20日	日光市湯西川
	湯西川下の獅子舞	昭和40年3月20日	日光市湯西川
	日向の獅子舞	昭和40年3月20日	日光市日向
	日蔭の獅子舞	昭和40年3月20日	日光市日蔭
	土呂部の獅子舞	昭和40年3月20日	日光市土呂部
	黒部の獅子舞	昭和40年3月20日	日光市黒部
	上栗山の獅子舞	昭和40年3月20日	日光市上栗山
	野門の獅子舞	昭和40年3月20日	日光市野門
	川俣の獅子舞	昭和40年3月20日	日光市川俣
無形民俗文化財 年中行事	生岡神社強飯式	昭和38年2月13日	日光市七里
有形民俗文化財 生業	金工神山致道遺品	昭和38年2月13日	日光市安川町
有形民俗文化財 有形民俗資	日光下駄	令和2年12月21日	日光市今市
有形民俗文化財	女人堂	昭和58年7月30日	日光市中宮祠

【市指定文化財；有形文化財（建造物他）】　※つづき

	名称	指定年月日	所在地
信仰	巫女石	昭和58年7月30日	日光市中宮祠
	延命地蔵堂（附）本尊木造地蔵座像、木像仏7体及び境内地の石造地蔵座像2体	平成7年7月25日	日光市本町
	勝善碑ならびに馬頭観世音碑群	昭和48年2月16日	日光市藤原
	法華題目塔道標	昭和49年9月14日	日光市川治温泉高原
	上三依の文政六年銘石造道祖神	昭和54年10月1日	日光市上三依
	旧高原新田村の十九夜塔	平成16年3月8日	日光市藤原
	庚申山碑	昭和51年3月15日	日光市足尾町遠下
	川俣温泉 薬師堂	昭和51年12月24日	日光市川俣
	高手観音	昭和51年12月24日	日光市湯西川
	小指 馬頭観音	昭和51年12月24日	日光市日向
	湯西川　六地蔵供養塔	平成5年4月9日	日光市湯西川
	野尻　六地蔵供養塔	平成5年4月9日	日光市日向
	高房神社　上社	平成5年4月9日	日光市湯西川
	高房神社　下社	平成5年4月9日	日光市湯西川
	東照公坐像 日光三社権現坐像	平成16年6月8日	日光市野門
	銅製掛仏	平成16年6月8日	日光市土呂部
	弘法大師坐像	平成16年6月8日	日光市日蔭
有形民俗文化財 風俗習慣	定書	平成16年6月8日	日光市川俣